



最初にお読みください

---

---

---

---

---

# CentreCOM® AR450Sリリースノート

---

この度は、CentreCOM AR450Sをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。  
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M3069-00 Rev.A）とコマンドリファレンス  
（J613-M3069-03 Rev.K）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様  
に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 2.9.1-11


---

## 2 本バージョンで追加された機能

---


ファームウェアバージョン 2.8.1-05 から 2.9.1-11 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

### 2.1 PPPoE における PADT 送信機能

 **「コマンドリファレンス」 / 「PPP」**

PPPoE セッション確立中に電源オフ・オンや異常リポートが発生した場合、網側の装置からは確立していたセッション ID をもったパケットが送信されますが、この際、PADT を送信し、網側装置の持つ PPPoE セッションの削除を促すよう、機能拡張しました。なお、本機能を使用するための設定は不要です。

### 2.2 UDP セッション保持時間の特例設定

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」**

ファイアウォールポリシーの設定において、特定のポート番号を使用する UDP セッションに対して、通常とは異なるセッション保持時間を適用できるようになりました。設定は新しく追加された ADD/SET FIREWALL POLICY UDPPORTTIMEOUT コマンドで行います。

## 3 本バージョンで修正された項目

---

ファームウェアバージョン 2.8.1-05 から 2.9.1-11 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 CREATE/SET TRIGGER xxx コマンドの DATE パラメーターに不正な日付を指定してもエラーにならないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.2 SNMP の switch ポートの一部のエラーカウンターがランダムな値を返すことがありましたが、これを修正しました。
- 3.3 Telnet サーバーの応答に時間がかかっていましたが、これを修正しました。

- 3.4 「SHOW INTERFACE=ppp0 COUNTERS」「SHOW INTERFACE=eth0 COUNTERS」で表示される「ifInOctets」「ifOutOctets」の値に誤りがありました。これを修正しました。
- 3.5 ENABLE INTERFACE=DYNAMIC LINKTRAP コマンドが設定できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.6 PPP において FCS のフラグ及び FCS が付加されたパケットを受信した場合、FCS を削除せずにブリッジを行っていましたが、これを修正しました。
- 3.7 PPP インターフェースのダウンにより経路が切り替わると、その PPP インターフェースが再びアップしても、経路が切り替わったままとなっていたが、これを修正しました。
- 3.8 IPCP で無効な IP アドレスが与えられても、IP アドレスの再割り当て要求以降の処理が正常に行われるよう修正しました。
- 3.9 SET TRACE コマンドにおいて、MINTTL（最小ホップ数）に MAXTTL（最大ホップ数）より大きい値を指定してもエラーになりませんでしたが、これを修正しました。
- 3.10 TRACE コマンドにおいて、パラメーター指定が正しくないときに表示が文字化けしていましたが、これを修正しました。
- 3.11 SET IP LOCAL コマンドにおいて、DHCP クライアントが接続されているインターフェース以外のインターフェースの IP アドレスが設定されている場合、BROADCAST フラグの立った DHCP Discover に対し、DHCP クライアント側に Offer を返していませんでしたが、これを修正しました。
- 3.12 コマンドラインから「SET OSPF RIP=BOTH」を入力し、「SET OSPF RIP=EXPORT」と「ADD OSPF REDISTRIBUTE PROTOCOL=RIP」の 2 コマンドに自動変換されたあとに設定をファイルに保存し、起動時設定ファイルに指定した上で再起動すると、「ADD OSPF REDISTRIBUTE PROTOCOL=RIP」の設定が有効になりませんでしたが、これを修正しました。
- 3.13 OSPF が無効のとき、SET OSPF コマンドで BGPLIMIT パラメーターの値を変更しても、ADD/SET OSPF REDISTRIBUTE PROTOCOL=BGP コマンドの LIMIT パラメーターに値の変更が反映されませんでしたが、これを修正しました。
- 3.14 PURGE OSPF コマンドを実行しても、ADD OSPF REDISTRIBUTE コマンドによる設定内容が消去されませんでしたが、これを修正しました。
- 3.15 OSPF 環境において、同一コストの外部経路が複数存在する場合、正しくルートテーブルに反映できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.16 ポリシーベースルーティングの対象となるルートが複数設定されている場合、インターフェースダウンなどによりルートが無効になると、誤ったルートを使用して通信していましたが、これを修正しました。

- 3.17 IPv6 脆弱性 (JVNVU#267289) への対策を行いました。
- 3.18 Port Restricted Cone NAT を使用すると、ファイアウォールルールが正しく動作していませんでしたが、これを修正しました。
- 3.19 ファイアウォールと ENAT が併用されている場合、Linux、Mac OS などで TCP の Windows Scaling のオプションが有効になっていると、ルーター越しの TCP セッションのスループットが著しく低下していましたが、これを修正しました。
- 3.20 レンジ NAT とファイアウォールを併用すると、サーバー、クライアント間でセッションが正常にクローズしているにもかかわらず、TCP のセッションが Establish のまま残り残されていました。これを修正しました。
- 3.21 ファイアウォールルールにおいて、同じ内容の設定が複数設定可能になることがありましたが、これを修正しました。
- 3.22 ファイアウォールとローカルインターフェースを併用した際に、本製品自身が送信するパケットが、NAT 処理されずに送信される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.23 ADD FIREWALL POLICY APPRULE コマンドにおいて「APPLICATION=FTP」を指定した際、本来必要な COMMAND パラメーターを省略しても、ルールの入力が受け付けられていましたが、これを修正しました。
- 3.24 ファイアウォールがフラグメントパケットを処理する際にレポートが発生する場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.25 Port Restricted Cone NAT 使用時の FTP (Passive モード) 通信後、ENAPT リストの削除処理中にレポートが発生していましたが、これを修正しました。
- 3.26 プリエンプモード OFF かつ優先度 231 以上でバックアップルーターとして動作している場合、マスタールーターがダウンしてもマスターに移行しませんでした。これを修正しました。
- 3.27 ripmetric を 2 以上に設定すると、DHCP サーバーがインターフェース直下の DHCP クライアントにアドレスをリースしませんでした。これを修正しました。
- 3.28 L2TP トンネル確立時にタイブレーク値に対する処理が正しく行われていませんでしたが、これを修正しました。
- 3.29 SET IPSEC POLICY コマンドを実行するとき、事前に設定された respondbadspi の値を継承していませんでしたが、これを修正しました。
- 3.30 長さが 2048 ビット (256 バイト) 以上の公開鍵を含む証明書を証明書データベースへ登録するとレポートしていましたが、これを修正しました。

## 4 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

---

最新の取扱説明書（J613-M3069-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M3069-03 Rev.K）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M3069-03 Rev.K」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

**<http://www.allied-teleasis.co.jp/>**